

家計の予算制約と暮らし向き

家計の暮らし向きは、家計の所得の大きさと消費の対象となる財サービスの価格とによってきまる。そのことを予算制約線と無差別曲線によって正確に示すことができる。

I. 選択の範囲

A. 選択の範囲をきめる条件

1. 所得 → 予算
2. 消費財価格

B. 所得（予算）制約線 —— 数値例

1 ヶ月の予算 10 万円

消費財の価格

財	価格
コメ	1000 円 / 1kg
牛肉	5000 円 / 1kg

10 万円の予算内で買えるコメと牛肉の量の最大限（単位：kg）

コメ	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0
牛肉	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20

II. 実質所得の変化

A. 価格が不変で所得のみが変化した場合

1. 所得の上昇： 実質所得の上昇
2. 所得の下落： 実質所得の下落

B. 価格が同じ比率を保ちながら変化した場合（例： 1000 円 → 800 円，5000 円 → 4000 円）

1. 所得が不変で価格のみが変化した場合
 - a. 価格の上昇： 実質所得の下落
 - b. 価格の下落： 実質所得の上昇
2. 所得と価格がともに変化した場合
 - a. 所得上昇率 > 価格上昇率： 実質所得の上昇
 - b. 所得上昇率 < 価格上昇率： 実質所得の下落

III. 相対価格の変化（例： 1000 円 → 700 円，5000 円 → 4000 円）

A. 消費財価格の比

1. 相対価格あるいは価格比の意味，その表わし方

$$\frac{1000}{5000} = \frac{1}{5}, \quad \frac{800}{4000} = \frac{1}{5}, \quad \frac{700}{4000} = \frac{7}{40}$$

2. この比率は，予算制約線の傾きをきめる。

B. 相対価格の変化によって生じる二つの変化

1. 予算制約線の傾き
2. 選択の範囲

IV. 無差別曲線を用いて考える

A. 無差別曲線とは

1. 消費者に同じ満足を与える消費財のさまざまな組み合わせがあるとする。
2. 消費者に同じ満足を与える消費財のさまざまな組み合わせを示すグラフ。

B. 暮らし向きの変化

1. 予算制約の範囲
2. 実現できる最大の満足（効用水準）

参考文献

教科書 . 第 3 章 . 第 1 節 , 第 2 節 , 45-51 ページ .